

# 歯の本数が少ないと、社会的孤立が深刻である可能性 日本で1.24倍、英国で1.76倍

～日本と英国の高齢者の大規模データから検証～

口腔の健康状態は、他人との会話、会食や審美的要因から、閉じこもりなどの社会関係に影響することが明らかになっています。これまで口腔の健康状態によって社会的孤立と関連があるのか、国が異なってもその関連があるのかについて明らかにした研究はありませんでした。本研究では日英の高齢者のデータを使用し、口腔の状態(歯の本数と入れ歯の使用)と社会的孤立との関係を比較・検討しました。その結果、英国の方が口腔の健康状態と社会的孤立との強い関連ではありましたが、日本と英国に共通して、歯の本数の減少や、義歯の不使用といった口腔状態が悪いことは、社会的孤立が深刻であることと関連することが示されました。

お問合せ先: 大阪国際がんセンター がん対策センター 主査 小山 史穂子 shihoko-koyama@umin.ac.jp

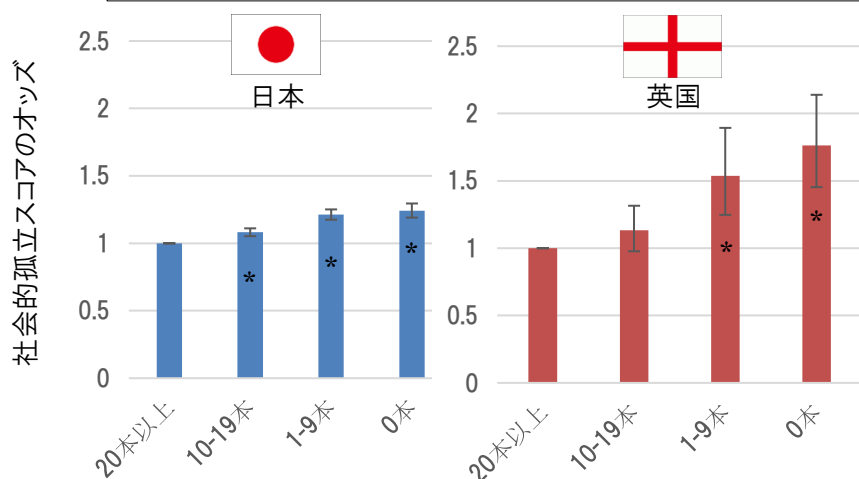


図 1. 歯の本数と社会的孤立の関連

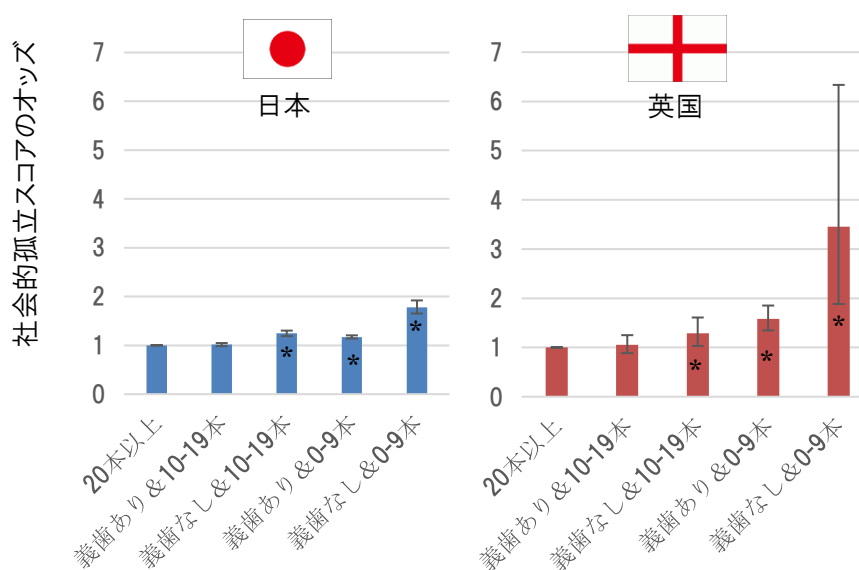


図 2. 入れ歯(義歯)の使用と社会的孤立の関連

図1.

65歳以上の高齢者(日本119,829人、英国3,958人)を対象とし、歯の本数と社会的孤立との関連を分析した。

日本・英国ともに歯の本数が少ないと社会的孤立のスコアが高くなることに関連した。

その程度は歯が20本以上ある人に比較して0本の人では、社会的孤立のスコアが高い可能性が、日本では1.24倍、英国では1.76倍、有意に高かった。

図2.

日本・英国ともに歯の本数が少なく、義歯を使用していないと社会的孤立のスコアが高くなることに関連した。

その程度は歯が20本以上ある人に比較して歯が0-9本でかつ入れ歯を使用していない人では、社会的孤立のスコアが高い可能性が、日本では1.78倍、英国では3.45倍、有意に高かった。

\*,  $p < 0.05$

解析では年齢、性別、学歴、所得、疾病、健康感、ADL(Activity of daily living)、喫煙を統計的に調整

社会的孤立は、①独居、②子どもとの交流が乏しい、③親戚との交流が乏しい、④友人との交流が乏しい、⑤社会参加がない、の5項目にそれぞれ該当した場合を各1点として、0～5点で評価

## ■背景

口腔の健康状態によって、機能的な要因や審美的要因から閉じこもりなどの社会関係に影響することが明らかになっています。昨今、社会関係の問題点として社会的孤立が挙げられており、特に高齢者において、社会的孤立は様々な健康状態と関係すると言われ、社会的孤立した集団では死亡率が高いことなどが明らかになっています。しかし、口腔の健康状態によって社会的孤立と関連があるのか、国が異なってもその関連があるのかについて明らかにした研究はなく、本研究では英国と日本の高齢者のデータを使用し、口腔の状態(歯の本数と義歯の使用)と社会的孤立との関係を比較・検討しました。

## ■対象と方法

日本老年学的評価研究(Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES)の2016年の調査データと、英国縦断高齢化調査(English Longitudinal Study of Ageing: ELSA)の2014/15年の調査データを用いて、1時点での関連を調べる研究を行いました。(対象者数:日本, 119,829人; 英国, 3,958人)。口腔状態は、歯の本数(0本/1-9本/10-19本/20本以上)と入れ歯(義歯)の使用(0-9本で義歯使用なし/0-9本で義歯使用あり/10-19本で義歯使用なし/10-19本で義歯使用あり/20本以上)を用いて評価しました。社会的孤立は、①独居(未婚あるいは配偶者・パートナーと同居していない)、②子どもとの交流が乏しい(子と同居していない、あるいは子どもとのサポートの授受がない)、③親戚との交流が乏しい(親戚とのサポートの授受がない)、④友人との交流が乏しい(友人と会う頻度が月1回未満、あるいはサポートの授受がない)、⑤社会参加がない、それぞれに該当した場合を各1点として0~5点で評価しました(点数が高いほど孤立傾向)。口腔の状態と社会的孤立との関連性を順序ロジスティック回帰分析により解析しました。解析では年齢、性別、学歴、所得、疾病、健康感、ADL(Activity of daily living)、喫煙の影響を統計的に調整しました。

## ■結果

日本と英国と共通して歯の本数が少ない人や、歯の本数が少なく義歯を使用していない人は社会的孤立スコアが高く、統計的に有意な関連性がみられました。また、その影響の程度は英国にて大きい可能性が示されました。具体的には、歯が20本以上ある人に比較して0本の人では、社会的孤立のスコアが高い(つまり社会的孤立が深刻である)可能性が、日本では1.24倍、英国では1.76倍、有意に高いことが示されました。また、歯が20本以上ある人に比較して歯が0-9本でかつ入れ歯を使用していない人では、社会的孤立のスコアが高い可能性が、日本では1.78倍、英国では3.45倍、有意に高い結果でした。

## ■結論

日本と英国ともに、歯の本数の減少や入れ歯の不使用といった口腔の健康が悪いことと、社会的孤立スコアが高いことの関連が明らかになりました。特に英国において、口腔状態の不具合によって社会的孤立スコアが高いことは、口元を含めた口腔全体の表現を重視する欧米の文化的な背景の差が原因かもしれません。

## ■本研究の意義

日本では独居者の増加や近隣関係の希薄化に伴い、今後、社会的孤立者のその急増が予想されています。さらに、新型コロナウイルス感染症の流行による社会活動の制限から、人々の孤独・孤立の問題は深刻さを増してきています。本研究によって口腔の健康が社会的孤立に関連していることが明らかになり、口腔の健康の重要性を示す基礎資料になると考えられます。

## ■発表論文

Koyama S, Saito M, Cable N, Ikeda T, Tsuji T, Noguchi T, Abbas H, Miyashiro I, Osaka K, Kondo K, Watt G R, Aida J: Examining the associations between oral health and social isolation: A cross-national comparative study between Japan and England. Social Science & Medicine. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0277953621002276>

## ■謝辞

本研究は、独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「高齢者の社会的孤立の健康影響の国際比較研究」(研究代表者: 齊藤雅茂)などからの研究費の助成を受けて行われました。